

◎入選作品 (13作品)

(応募順・敬称略)

氏名	作品名	撮影場所
永島 恭子	桜...花筏	大久保浄水場の桜並木
齋藤 隆之	秋の田に遊ぶ	大久保浄水場土手
張替 政雄	校外学習	桜草公園
赤座 幸男	水辺の風格	秋ヶ瀬公園内
滝田 晋一	塚本郷 世代をつなぐ米作り	桜区 塚本
金子 浩昭	夕日	荒川運動公園
秋山 美玖	ハートがいっぱい	田島ヶ原サクラソウ自生地
小杉 要	今年も豊作	桜区 道場
柴 武夫	春の例大祭～御神楽～	田島御嶽神社
茂木 和明	春らんまん	中土手橋
山口 美弥子	陽春	桜区 神田
後藤 哲史	桜道	新開小の裏通り
松尾 将子	お花のお出迎え	大泉院

令和5年度
桜区にとっておきの1枚写真コンテスト
入賞・入選作品一覧



応募総数：81作品

たくさんのご応募ありがとうございました



◎入賞作品

最優秀賞 いまい ともみ 今井 智己 さん 「希望」



撮影場所：秋ヶ瀬土手

秋ヶ瀬公園の土手で撮影した写真です。大型の台風が襲来し、秋ヶ瀬公園も少なからず被害を受けました。台風が去り、人々が土手から秋ヶ瀬公園を眺めていました。薄ピンク色の光が空にさし始め、それは希望を感じさせるものでした。

審査委員からの講評

赤い夕陽や雲の切れ間から差し込む光が、幸運の「兆し」のように感じられる。「希望」というタイトルと情景がよく合っており、強いメッセージ性が感じられる。

優秀賞 たかはし まさはる 高橋 政春 さん 「春を待つ」



撮影場所：桜草公園

背景に人が映らないように意識し、炎の美しさを強調しました。また、手前には参加者を多く入れて、気持ちに炎に託す様子を表現しました。今年もサクラソウの咲く時期が楽しみです。

審査委員からの講評

サクラソウ自生地の野焼きという、桜区を象徴するような風景を、迫力満点に捉えている。やや引いたアングルも絶妙で、燃え盛る炎から非常に力強い印象を受けた。

審査委員特別賞 えんどう よしゆき 遠藤 善行 さん 「ロケット発射！」



撮影場所：さいたま市桜区役所前

私は新開タワーが大好きです。昭和の特撮作品に出てきそうなデザインが最高にクールです。撮影した当日、偶然雲がロケットの噴煙のように見えたため、急いでシャッターを切りました。いつも観察していて良かった！

審査委員からの講評

雲と新開タワーをロケットに見立てるという発想が非常にユーモラス。地域住民に親しまれる新開タワーに広い青空が相まって、非常に桜区らしい一枚。

優秀賞 たわらやま たけあき 俵山 剛章 さん 「彩の火」



撮影場所：荒川土手

今年、さいたま市が、政令指定都市移行20周年、それを記念し開催された花火大会を撮影しました。埼玉県は、愛称で彩の国と呼ばれますが、この愛称のように、素敵な彩りの花火でした。この先もずっと、彩の火が灯りますように。

審査委員からの講評

ただ花火を撮るのではなく、水面に移った光や街並みを上手く捉えている。多種多様な光と雲が組み合わせさり、幻想的な雰囲気を生み出している。

審査委員特別賞 はなしま としお 花島 敏夫 さん 「午後のコンサート」



撮影場所：プラザウエスト1階ロビー

桜みんなのコンサートを撮りました。その演奏は気分を安らいでくれ、見上げると吹き抜けの螺旋階段が目に入り、「これだ！」と直感して階段上から撮りました。会場が円形にセットされていて、優しさも表現できました。

審査委員からの講評

出演者と円形の客席全体を、真上から捉えた構図がユニーク。コロナ禍で催しが縮小し、配置が変わっていた時期だからこそ撮影できた1枚というところが良い。

さいたま国際芸術祭部門賞 ながしま ひさお 永島 久雄 さん 「晴れ衣装」



撮影場所：秋ヶ瀬公園

秋ヶ瀬公園を散歩していると、遠く木陰の中に光るものが見えました。近寄ってみると、それは太陽の衣をまとった1本の木です。まるで舞台役者のように凛として輝いていました。

審査委員からの講評

自然の作り出した「晴れ着」の芸術という発想が素晴らしい。ロケーション、タイミング等タイトルと非常にマッチしており、撮影者の工夫が感じられる。